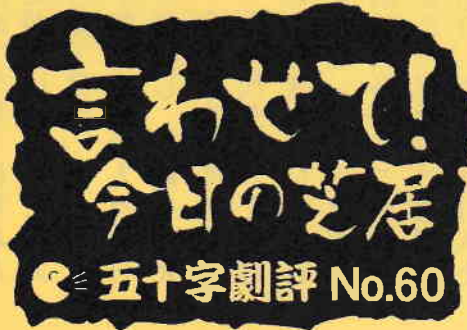


旅立つ家族



劇団文化座

【五〇代】

▼美術館の壁にかかっている絵画が一枚ずつ拡大されていく演出に「いつもの文化座とは違う」と期待が高まった。
(女性)

▼昼の部は観劇マナーが悪かったので芝居をぶち壊すので

はないかと心配したが、舞台上に集中し感動のカーテンコール三回!!フィナーレを迎えることができた。(女性)

▼躍動感にあふれる舞台だった。闘う牛、歌、イ・ジュソプの生き様に圧倒された。観劇できた私は幸せだ。
(女性)

▼残酷な戦争の時代に芸術を追求することの困難が痛々しい。主人公は純粹過ぎたが、それ故周囲は見捨てなかった。
(男性)

【六〇代】

▼イ・ジュソプを演じた藤原章寛と山本方子を演じた高橋美沙の演技が良かった。また、進行役の佐々木愛ももちろん素晴らしかった。それを支える多くの役者の躍動感溢れる演技・歌もとても迫力があつた。そしてテンポの良い場面転換

と舞台道具の巧みな使い方は上手いと感じた。良い意味で、今までの文化座のイメージとは異なる舞台だった。これは、キム・スジンの演出によるものなのか。それにしても、画家とは何と辛い職業なのかと思ってしまう。イ・ジュソプも、評価を高めたのは彼の死後。そして戦争に翻弄された二人の姿が哀しい。
(男性)

▼ビデオを見ていない、私のサークルの二名が牛のシーンに、まず一気に引き込まれたと、感想を言っていました。

▼日韓関係がなかなか大変な時代ですが、またひとつ絆が深まる劇だったと思います。井上ひさしの「シャーンハイムーン」ともちがった形でgood!
(男性)

▼ラストで家族が牛に曳かれて、楽しそうに移動する

シーンがあつた。この後、スクリーンが下りて、同じ構図の絵が映し出された。「はっ」とした。「旅立つ家族」は、この絵のタイトルではないのか。
(男性)

▼激動の時代の中で抑圧され、自身の芸術を理解されず、もがき苦しみながら生きてきた主人公に涙が止まりませんでした。イ・ジュソプ役の藤原章寛さんは本当に韓国の人の様。熱量あふれる演技に最後まで目が離せませんでした。他の役者達も熱演で見ごたえのある素晴らしい舞台でした。
(女性)

▼難しい実話の脚本。近代日韓、戦争がらみ。故郷を悲しい国と言う画家。牛の造形と歌。没後評価の嬉しい涙。
(女性)

▼主人公の心情が圧倒的な迫力で表わされた舞台だった

た。自分の表現(絵)を自由に表示することが困難な時代。日本の支配や自国の圧力など。そこで、家族ともはなればなれに！舞台での最後の絵は、優しい家族の絵だった。

(女性)

▼これほど会場が沸いた芝居は久々。イ・ジュンソプという画家の存在を初めて知って、また、日本が朝鮮を支配していたことで起こった彼の悲劇を知って、あらためて学校では習わない歴史が芝居によって教えてもらえて良かったと思う。日本が朝鮮半島の人々に日本語を強要し、名前を変えられ、自分自身を生きられなかった時代があったと思うといたたまれない。私自身知らないことはまだまだだ。圧倒的に多い。これからは山も芝居から学べることは山ほどあり、できるだけ人と

お話をすることが大切なのだと痛感している。(女性)

【七〇代】

▼舞台転換も目を離すことは出来ず、私は息を吐いてのたうちまわると魅かれていた。ベテランと若い団員が一つになつて汗を流す姿により感動でした。

▼憤りを覚えるとともに心が震えました。いつまでも鳴りやまない拍手、会場が一つに、感動です。(女性)

▼朝鮮戦争、南北分断の時代を生きた人々の事を私は知らなかったと反省。舞台装置、演出に目を見張らされ、感動でした。(女性)

▼二列目の座席で迫力ある演技、豊かな表情を直に観ることができ、物語と共に感動的でした。ありがとうございます。(女性)

▼芸術も家族愛も戦争に翻弄された人々！朝鮮の仮面劇(ユネスコ無形文化遺産)のよう。戦争は絶対いや！

(女性)

▼満足、納得できるお芝居でした。体調があまり良くなかったのですが、前へ向くエネルギーをいただきました。(女性)

(女性)

▼平面の牛が六人で動き出し立体になる、驚きひき込まれました。この発想おもしろい。それからの進展はどうなるかワクワクしていたが、その後はいつもの説明の多い文化座芝居。最後まで気をぬかず見ましたがくたびれました。

▼お芝居そのものにも感動したが、舞台装置を見るのも楽しく、佐々木愛さんの若々しい語りも素晴らしかった。(女性)

(女性)

▼イ・ジュンソプの画家として、紙・絵の具などが無くては描きたくても描けないもどかしさは分かるが、酒に溺れ体を壊し三十九歳で亡くなる人生、天才芸術家の辿る道なのでしょいか？女性と男性では我慢・辛抱の違いが浮き彫りになっていました(女の人そして母親は強いとよく聞か





されましたが)。今回の演劇で初めて知った人達の人達が「愚かな戦争」で別れ別れになる残酷さ、久々に泣きました。前の方で観ていたので、歌が響きすぎるのか内容がわからなかったのが残念でした。(女性)

【八〇代】

▼熱演は言うに及ばず舞台転換の見事さ、音響、文字や絵などの投影、演出の豊かさに圧倒された。歴史に翻弄されたイ・ジュンソプの生涯は胸を打った。痛ましいだけでは片付けられない。

▼唯々家族を愛し、絵を描き続けることができないなんて間違っている。狂おしい思いがまっ直ぐに、そしてドラマチックに伝わってきた。

編集スタッフから

「旅立つ家族」見終わり、いつまでも鳴り止まない拍手と、会場の一体感に包まれました。芝居は不思議です。私もいつの間にか芝居に入り込んでいました。辛い内容でした。そして昨年にイ・ジュンソプの妻が百一歳で死去に驚き、お隣の国なのに知らないことが多い事。どう生きるのかを問われました。